

RNA2012 Tohoku

第 14 回日本 RNA 学会年会  
(14<sup>th</sup> RNA meeting in Tohoku)

2012 年 7 月 18 日(水)～20 日(金)

東北大学百周年記念会館川内萩ホール  
(仙台市青葉区)

## 第 14 回日本 RNA 学会年会(14<sup>th</sup> RNA meeting in Tohoku)

【会 期】 2012 年 7 月 18 日(水)～20 日(金)

【会 場】 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール  
〒980-8576  
宮城県仙台市青葉区川内 40  
TEL : 022-795-3391 / FAX : 022-795-3390

【主 催】 日本 RNA 学会

【後 援】 協和発酵キリン 株式会社  
社団法人 バイオ産業情報化コンソーシアム

【参加費】 日本 RNA 学会会員      一般: 12,000 円    学生: 4,000 円  
日本 RNA 学会非会員      一般: 17,000 円    学生: 6,000 円  
※ 当日参加登録は 2,000 円加算されます。

【総 会】 2012 年 7 月 19 日(木)  
会 場: 川内萩ホール  
※ ご欠席の場合は、事前に委任状を事務局まで提出ください。

【懇 親 会】 2012 年 7 月 19 日(木) 19:00～  
会 場: 本丸会館 2F  
会 費: 一般 6,000 円    学生 3,000 円

【企業展示】 日 時： 2012 年 7 月 18 日(水)10:00～20 日(金)13:00 まで

会 場： ホワイエ(川内萩ホール2階)

\*\*\*\*\* 出 展 企 業 ( 5 0 音 順 ) \*\*\*\*\*

エスケーバイオインターナショナル株式会社

オペロン バイオテクノロジー株式会社

株式会社 医学生物学研究所

株式会社 ジーンデザイン

タイテック株式会社

【プログラム委員兼ポスター賞審査委員(50 音順,敬称略)】

浅井 潔(東京大学)

浅原弘嗣(東京医科歯科大学)

井川善也(九州大学)

伊藤耕一(東京大学)

井上邦夫(神戸大学)

今高寛晃(兵庫県立大学)

入江賢児(筑波大学)

尾之内均(北海道大学)

影山裕二(基礎生物学研究所)

河合剛太(千葉工大)

黒柳秀人(東京医科歯科大学)

剣持直哉(宮崎大学)

齋藤博英(京都大学)

佐渡敬(九州大学)

塩見美喜子(慶応大学)

杉浦麗子(近畿大学)

鈴木勉(東京大学)

清尾康志(東京工業大学)

泊 幸秀(東京大学)

富田野乃(東京大学)

富田耕造(産業技術総合研究所)

中川真一(理化学研究所)

濡木 理(東京大学)

廣瀬哲郎(産業技術総合研究所)

藤原俊伸(神戸大学)

星野真一(名古屋市立大学)

宮川さとみ(大阪大学)

山下暁朗(横浜市立大学)

吉久 徹(名古屋大学)

【世話人】

第 14 回日本 RNA 学会年会

年会長 稲田 利文(東北大学大学院薬学研究科・教授)

**【連絡先】**

第14 回日本 RNA 学会年会事務局

〒980-0871 宮城県仙台市青葉区荒巻 薬学研究科 C 棟稲田研究室内

年会長 稲田 利文

RNA2012 Tohoku ホームページ: <http://www.rnaj.org/RNA2012/>

年会専用メールアドレス: [rna2012@mail.pharm.tohoku.ac.jp](mailto:rna2012@mail.pharm.tohoku.ac.jp)

# 日 程 表

| 7/18(水) |                                                                                            | 7/19(木)                                          |                                                                               | 7/20(金)        |                                   |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------|
| 8:30    | 参加登録受付                                                                                     | 参加登録受付                                           | 参加登録受付                                                                        | 8:30           |                                   |
| 9:00    | ポスター貼付／企業展示                                                                                | Session.4                                        | Session.6                                                                     | 9:00           |                                   |
| 9:30    | 開会挨拶 9:30-9:35<br><br>Session. 1<br><br>「small RNA」<br><br>Session. 2<br><br>「RNA 分解と品質管理」 | 「RNA テクノロジー」<br><br>Session.5<br><br>「翻訳因子の機能構造」 | 「発生と分化」                                                                       | 9:30           |                                   |
| 10:00   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 10:00          |                                   |
| 10:30   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 10:30          |                                   |
| 11:00   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 11:00          |                                   |
| 11:30   |                                                                                            |                                                  | 11:30                                                                         |                |                                   |
| 12:00   |                                                                                            |                                                  | 12:00                                                                         |                |                                   |
| 12:30   |                                                                                            |                                                  | 昼食 12:30-13:30                                                                | 昼食 12:30-13:30 | 昼食 12:00-13:00<br>(企業展示搬出 13:00～) |
| 13:00   | Session. 7                                                                                 | 13:00                                            |                                                                               |                |                                   |
| 13:30   | ポスターセッション (1)<br><br>(奇数番号)                                                                | ポスターセッション (2)(偶<br>数番号)                          | 「リボソームと翻訳制御」                                                                  | 13:30          |                                   |
| 14:00   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 14:00          |                                   |
| 14:30   |                                                                                            |                                                  | Session. 8                                                                    | 14:30          |                                   |
| 15:00   | Session.3<br><br>「Non-coding RNA」                                                          | シンポジウム 2                                         | 「プロセッシングと輸送局在」                                                                | 15:00          |                                   |
| 15:30   |                                                                                            | 『RNA 疾患研究の最前線』                                   |                                                                               | 15:30          |                                   |
| 16:00   |                                                                                            | 日本学士院学術奨励賞受<br>賞記念講演<br><br>『smallRNA の生化学』      | 閉会挨拶 16:05-16:10                                                              | 16:00          |                                   |
| 16:30   |                                                                                            |                                                  | (散会)                                                                          | 16:30          |                                   |
| 17:00   | シンポジウム1<br><br>『ウイルスと RNA～進<br>化・共存・免疫・応用』(敬<br>称略)                                        | 日本 RNA 学会総会                                      |                                                                               | 17:00          |                                   |
| 17:30   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 17:30          |                                   |
| 18:00   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 18:00          |                                   |
| 18:30   |                                                                                            | 懇親会 18:30～                                       |                                                                               | 18:30          |                                   |
| 19:00   | ポスター & ピア<br><br>19:10-20:30                                                               | 於 本丸会館                                           |                                                                               | 19:00          |                                   |
| 19:30   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 19:30          |                                   |
| 20:00   |                                                                                            |                                                  |                                                                               | 20:00          |                                   |
| 20:30   |                                                                                            |                                                  |                                                                               |                | 20:30                             |
| 備考      | 受付時間 8:45-17:00<br>ポスター貼付 8:40-13:30<br>企業展示 10:00-17:00<br>(搬入 8:45-11:00)                | 受付時間 8:45-17:00<br>企業展示 10:00-17:00              | 受付時間 8:45-14:00<br>ポスター撤去 12:00-13:00<br>企業展示 10:00-13:00<br>(搬出 13:00-15:00) |                |                                   |

## 発表者へのご案内

### 【口頭発表】

本年度の発表時間は次の通りです。

一般演題: 発表12分／質疑応答2.5分／予備0.5分。合計15分間

発表終了時、質疑応答終了時にベルで合図を致します。

タイトなスケジュールですので、時間厳守をお願いします。

また、ご自分の発表の一つ前になったら、必ず次演者席にお越し下さい。次演者席は会場内PCオペレーター席付近になります。

### ＜ご発表に際しまして＞

事務局で用意するPCでのご発表となります。

USBフラッシュメモリーもしくはCD-Rにてデータをお持ちいただき、事務局で用意しているPCにコピーしてご使用いただきます。OSやソフト環境によって、フォントや図が適切に表示されない、動画が使用できないなどの不具合の発生が見込まれる場合はご自身のPCをお持ち込み下さい。事務局で準備するPCの動作環境は以下の通りとなります。

Macintosh: MacBook(late2008) Mac OS X 10.5.8 (Intel )

PowerPoint 2008 for Mac

MacBook(late2008) Mac OS X 10.7.4 (Intel )

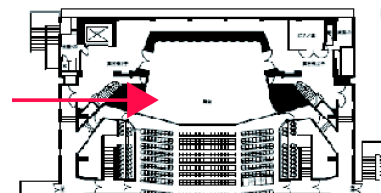
PowerPoint 2011 for Mac

Windows: Windows Vista

Microsoft Office PowerPoint 2007

### ＜発表受付及び試写＞

発表受付は会場内のオペレーター席にて行います。受付時間は次の通りです。発表データまたはご自身のPCをお持ちの上、ホール内PCオペレーター席(ステージ向かって左前方→の場所)までお越し下さい。



2F

スタッフと共に接続と試写の確認をお願い致します。

※できるだけ、余裕をもって受付・試写確認をお願いいたします。特に18日と19日の午前中のセッションの発表の方は、前日の夕方にも試写を受け付けますので、お時間がありましたら、できる限りお早めの試写をお願いいたします。

| Session       | 受付時間               | 備考                               |
|---------------|--------------------|----------------------------------|
| Session. 1, 2 | 18 日 8:40 - 9:30   | 試写は 17 日の夕方 17:00-18:30 も受け付けます。 |
| Session. 3    | 18 日 13:00 - 13:30 |                                  |
| Session. 4, 5 | 19 日 8:35 - 9:05   | 試写は 18 日の昼 13:00-13:30 も受け付けます。  |
| Session. 6, 7 | 20 日 8:35 - 9:05   | 試写は 19 日の昼 13:00-13:30 も受け付けます。  |
| Session. 8    | 20 日 12:00 - 13:00 |                                  |

#### <注意事項>

[USBフラッシュメモリーもしくはCD-Rでお持ち込みの方]

- 1) パケットライティングで記録されたCD-Rのデータは、読み込みができない場合がございますのでご注意ください。
- 2) ファイル名はローマ字で「演題番号-演者名.ppt」として下さい。  
(例) O1-suzuki.ppt (pptx)

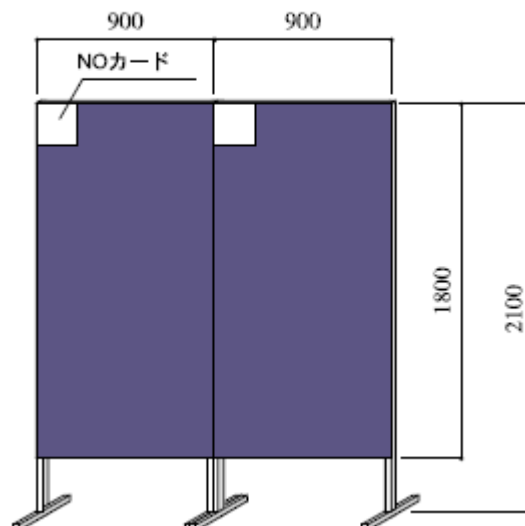
[ご自身のPCをご使用の方]

- 1) バックアップデータ(USBフラッシュメモリー・CD-R)を必ずご用意下さい。ファイル名はローマ字で「セッション番号-演者名.ppt」として下さい。(例) O1-suzuki.ppt (pptx)
- 2) 会場の液晶プロジェクターのスクリーン上で、写真や図が開かない等、不具合を避けるため、フォントやファイルの保存方法等にご注意下さい。
- 3) 画面接続は、D-sub15ピンのコネクタ(一般的なモニタ端子)です。ご自身のパソコンの映像出力端子がこれと異なる場合は、接続アダプターをご自身でご用意下さい。
- 4) 予め、スクリーンセーバー、省電力設定を解除しておいて下さい。
- 5) 試写終了後、またはセッション前の休憩時間に接続準備を行いますため、ご使用のPCを一時お預かりさせていただきます。セッション終了後にPCのお受け取りをお願い致します。

### 【ポスター発表】

1. パネルの掲示サイズは90cm(横)×180 cm(縦)です。パネルには左上に20cm×20cm サイズの番号が貼ってありますので、所定のパネルにお貼り下さい。
2. ポスターの形式は特に定めませんが、上部にタイトル、発表者名、所属(和文と英文)を提示して下さい。
3. 発表者はポスター会場前受付にお越し下さい。その際に、押しピン、発表時用リボンをお受け取り下さい。
4. ポスターの貼付および撤去時間は次の通りです。  
ポスター貼付: 7月18日(水) 8:40-13:30  
ポスター撤去: 7月20日(金) 12:00-13:00
5. 発表時間は下記の通り2 回です。  
ポスターセッション(1)奇数番号発表: 7月18日(火) 13:30-15:00  
ポスターセッション(2)偶数番号発表: 7月19日(水) 13:30-15:00
6. 発表時間中、発表者はリボンをつけて、ポスターの前で説明・討論を行って下さい。

### ●ポスター展示詳細



## 第 14 回 日本 RNA 学会年会 口頭発表

7 月 18 日(水)

9:30- 9:35 開会の挨拶 年会長 稲田 利文(東北大・薬)

---

9:35-10:55 Session 1 【small RNA】

座 長 三嶋 雄一郎(神戸大学)、佐藤 薫(慶応大学)

---

9:35- 9:40 Overview 三嶋 雄一郎(神戸大学)

9:40- 9:55 O-01

Reconstitution of RISC Assembly Mediated by Hsc70/Hsp90  
Chaperone Machinery

○Shintaro Iwasaki<sup>1</sup>, Ken Naruse<sup>1,2</sup>, and Yukihide Tomari<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>Institute of Molecular and Cellular Biosciences, <sup>2</sup>Department Medical  
Genome Sciences, The University of Tokyo, Tokyo, Japan)

9:55-10:10 O-02

SGS3 による切断 RNA-RISC 複合体の安定化

○吉川 学、井木 太一郎、土生 芳樹、石川 雅之  
(農業生物資源研究所)

10:10-10:25 O-03

ヒト miR-122 の定常状態量は GLD-2 によるアデニル化と PARN/CUGBP  
によるデアデニル化によって制御される

○北條広朗<sup>1)</sup>、加藤敬行<sup>1)</sup>、鈴木勉<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>東京大学工学系研究科化学生命工学専攻

10:25-10:40 O-04

Zucchini endoribonuclease is required for primary piRNA  
biogenesis

○Hirotsugu Ishizu<sup>1</sup>, Hiroshi Nishimasu<sup>2</sup>, Kuniaki Saito<sup>1</sup>, Satoshi  
Fukuhara<sup>2</sup>, Miharu K. Kamatani<sup>1</sup>, Naoki Matsumoto<sup>2</sup>, Tomohiro  
Nishizawa<sup>2</sup>, Luc Bonnefond<sup>2</sup>, Keita Nakanaga<sup>3</sup>, Junken Aoki<sup>3</sup>,  
Ryuichiro Ishitani<sup>2</sup>, Haruhiko Siomi<sup>1</sup>, Osamu Nureki<sup>2,4</sup> & Mikiko C.  
Siomi<sup>1,2,4</sup>

(<sup>1</sup>Department of Molecular Biology, Keio University School of  
Medicine, <sup>2</sup>Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate

School of Science, The University of Tokyo, <sup>3</sup>Graduate School of  
Pharmaceutical Sciences, Tohoku University, <sup>4</sup>JST, CREST)

10:40-10:55 O-05

piRNA 経路因子 Maelstrom の結晶構造

○松本 直樹<sup>1</sup>、西増 弘志<sup>1</sup>、佐藤 薫<sup>2</sup>、石谷 隆一郎<sup>1</sup>、塩見 美  
喜子<sup>2,3</sup>、塩見 春彦<sup>2</sup>、濡木 理<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻、<sup>2</sup>慶應義塾大学医学  
部分子生物学教室、<sup>3</sup>JST, CREST

10:55-11:10 コーヒーブレイク

---

11:10-12:30 Session 2 【RNA 分解と品質管理】

座 長 秋光 信佳(東京大学)、北畠 真(京都大学)

---

11:10-11:15 Overview 秋光 信佳(東京大学)

11:15-11:30 O-06

*CBP1* mRNA は NGD の細胞内標的 mRNA である

○坪井 達久、稲田 利文  
(東北大・院薬)

11:30-11:45 O-07

真核生物リボソームの品質管理

○北畠 真<sup>1</sup>、藤井 耕太郎<sup>1</sup>、佐野 広大<sup>1</sup>、坂田知子<sup>1</sup>、大野 睦人<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>京都大学ウイルス研究所)

11:45-12:00 O-08

ゲノムワイドな RNA 分解測定法を利用した新規 UPF1 標的 RNA の同定

谷 英典<sup>2</sup>、今町 直登<sup>1</sup>、入江 拓磨<sup>3</sup>、鈴木 穰<sup>3</sup>、○秋光 信佳<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東京大学アイソトープ総合センター、<sup>2</sup>産業技術総合研究所、<sup>3</sup>東京大学  
大学院新領域創成科学研究科)

12:00-12:15 O-09

減数分裂特異的転写産物の選択的除去機構

○山下 朗<sup>1</sup>、高山 知美<sup>2</sup>、七野 悠一<sup>1,2</sup>、岩田 遼<sup>2</sup>、

山本 正幸<sup>1</sup> (<sup>1</sup>かずさ DNA 研究所、<sup>2</sup>東大院理生物化学)

12:15-12:30 O-10

シロイヌナズナの PARN/AHG2 と AHG2 SUPPRESSOR1

(AGS1)はミトコンドリアmRNAのpolyA鎖長調節に関与する

○平山隆志<sup>1</sup>、松浦恭和<sup>1</sup>、牛山翔<sup>2</sup>、林晋平<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>岡山大学、<sup>2</sup>横浜市立大学、<sup>3</sup>農業生物資源研)

12:30-13:30 昼食

13:30-15:00 ポスターセッション (1) 奇数番号発表

---

15:00-16:50 Session 3 【non-coding RNA】

座 長 影山 裕二(神戸大学)、佐渡 敬(九州大学)

---

15:00-15:05 Overview 影山 裕二(神戸大学)

15:05-15:35 S-1

不活性 X 染色体における非コード RNA XIST を介したヘテロクロマチン  
形成機構

○小布施力史<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>北海道大学・大学院先端生命科学研究院・  
分子細胞生物学研究室)

15:35-15:50 O-11

哺乳動物の染色体分離を制御するセントロメア由来 ncRNA  
の解析

○ 井手上賢<sup>1</sup>、徳永和明<sup>2</sup>、長裕紀子<sup>3</sup>、西村佳菜子<sup>3</sup>、中尾光善<sup>2</sup>、  
谷時雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>熊本大学自然科学研究科、<sup>2</sup>熊本大学発生医学研究所、<sup>3</sup>熊本大  
学理学部理学科)

15:50-16:05 O-12

Physiological roles of MRE32 RNA in *Drosophila* optic lobe and wing development.

Sachi Inagaki<sup>1)</sup> Masanao Sato<sup>2)</sup> Yasuo Fukami<sup>1)</sup> Yuji Kageyama<sup>1)</sup>

1) Research Center for Environmental Genomics, Kobe University, Japan

2) Okazaki Institute for Integrative Bioscience, National Institute for Basic Biology National Institutes of Natural Sciences, Japan

16:05-16:20 O-13

核内構造体パラスペックルの骨格 ncRNA である NEAT1 を欠損するマウスは早期に不妊になる

○中川真一<sup>1</sup>、廣瀬哲郎<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 理研・基幹研、<sup>2</sup> 産総研・バイオメディシナル)

16:20-16:35 O-14

変異型 Xist RNA が招く X 染色体不活性化の異常

酒田祐佳, 保木裕子, 佐々木裕之, ○佐渡 敬

(九州大学生体防御医学研究所エピゲノム学分野)

16:35-16:50 O-15

プロテアソーム阻害に応答した核内構造体 noncoding RNA の転写抑制機能

○廣瀬 哲郎<sup>1</sup>、谷川 明恵<sup>1</sup>、Giorgio Virnicchi<sup>2</sup>、Marianne Benard<sup>2</sup>、長沼 孝雄<sup>1</sup>、佐々木 保典<sup>1</sup>、中川 真一<sup>3</sup>、Archa Fox<sup>4</sup>、Gerard Pirron<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 産総研・バイオメディシナル、<sup>2</sup> CNRS, Villejuif、<sup>3</sup> 理研・基幹研、

<sup>4</sup> Univ. Western Australia)

16:50-17:05 コーヒーブレイク

---

17:05-19:00 シンポジウム1 【ウイルスとRNA～進化・共存・免疫・応用】

座 長 米山 光俊(千葉大学)

---

17:05-17:10 Overview 米山 光俊(千葉大学)

17:10-17:35 S2

RNA ウイルスと tRNA の進化

○田村 浩二<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京理科大学基礎工学部生物工学科,<sup>2</sup> 東京理科大学総合研究機構)

17:35-18:00 S3

Q $\beta$  レプリケースによるRNA合成の分子基盤: 翻訳伸長因子のRNA  
伸長因子としてのはたらき

竹下 大二郎、○富田 耕造

(産総研バイオメディカル)

18:00-18:25 S4

RNA ウイルスの内在化と進化的意義の解析

○朝長 啓造<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 京都大学ウイルス研究所 ヒトがんウイルス研究分野)

18:25-18:50 S5

自然免疫とその転写後制御機構

○ 竹内 理<sup>1</sup>、三野享史<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 京都大学ウイルス研究所)

18:50-19:15 S6

マイクロ RNA によって制御されるウイルスベクターの開発

○ 中村貴史<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 鳥取大学大学院医学系研究科)

19:15- ポスター&ビアー

7月19日(木)

---

9:10-11:30 Session 4【RNAテクノロジー】

座長 鈴木 勉(東京大学)、斉藤 博英(京都大学)

---

9:10-9:15 Overview 鈴木 勉(東京大学)

9:15-9:45 S7

光化学的な RNA 操作法の開発

○ 藤本 健造<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>北陸先端科学技術大学院大学)

9:45-10:00 O-16

人工塩基対システムおよびクリック反応による機能性

RNA の部位特異的修飾

○石塚 匠<sup>1</sup>、木本 路子<sup>1,2</sup>、佐藤 旭<sup>1</sup>、平尾 一郎<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>理研・生命分子システム、<sup>2</sup>タグシクス・バイオ株式会社)

10:00-10:15 O-17

RNAi 活性の向上と Off-target 効果の抑制を目指した修飾 siRNA の分子設計

伊藤 浩<sup>1</sup>、漆原 雅朗<sup>1</sup>、高井順矢<sup>1</sup>、梁興国<sup>1</sup>、○浅沼 浩之<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>名大院工)

10:15-10:30 O-18

RNA アプタマーの抗プリオン活性とその構造的基盤

○ 真嶋 司<sup>1,2,3</sup>、西川 富美子<sup>4</sup>、鎌足 雄司<sup>5</sup>、藤原 弘道<sup>1,2</sup>、

永田 崇<sup>1,2</sup>、小瀧 努<sup>1,2</sup>、西川 諭<sup>4</sup>、桑田 一夫<sup>6,7</sup>、

片平 正人<sup>1,2,7</sup>

(<sup>1</sup>京大・エネルギー理工学研究所、<sup>2</sup>京大・エネルギー科学研究科、

<sup>3</sup>学振特別研究員 DC2、<sup>4</sup>産総研、<sup>5</sup>岐阜大・生命科・総合研究支援

センター、<sup>6</sup>岐阜大院・連合創薬、<sup>7</sup>JST・CREST)

10:30-10:45 O-19

抗 FGF2 RNA アプタマーを用いたリウマチ関節炎モデルマウスの解析

○石黒 亮<sup>1</sup>、小澤 美智留<sup>1</sup>、柴田 勝一郎<sup>1</sup>、中村 義一<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>東京大学医科学研究所・「RNA 医科学」社会連携研究部門、

<sup>2</sup>株式会社リボミック)

10:45-11:00 O-20

人工 RNA システムを活用した遺伝子操作・細胞運命制御技術体系の  
創出

遠藤 慧<sup>2</sup>、檜田俊一<sup>3</sup>、井上丹<sup>3</sup>、○齊藤 博英<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>京大白眉センター、<sup>2</sup>京大 iPS 研、<sup>3</sup>京大生命)

11:00-11:15 O-21

小分子入力を RNA 出力へと変換するアプタザイムデバイス

○ 鮎川 翔太郎<sup>1</sup>、酒井 洋子<sup>2</sup>、木賀 大介<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>東京工業大学情報生命博士教育院、<sup>2</sup>東京工業大学大学院総合理工  
学研究科知能システム科学専攻)

11:15-11:30 O-22

なぜ生命は細胞か? : マイクロ流路デバイスを用いた

「RNA ワールド」プロト細胞モデルの構築

○ 松村 茂祥, Faith M. Coldren, Annick Marin, Ali Fallah-Araghi,  
Andrew D. Griffiths, Michael Ryckelynck

(ストラスブール大学 ISIS)

11:30-11:45 コーヒーブレイク

---

11:45-12:35 Session 5【翻訳因子の機能構造】

座 長 堀 弘幸(愛媛大学)

---

11:45-11:50 Overview 堀 弘幸(愛媛大学)

11:50-12:05 O-23

TrmD-tRNA 複合体の結晶構造により明らかとなった基質認識機構と  
メチル基転移反応機構

○ 伊藤 拓宏<sup>1,2</sup>、吉田 健一<sup>1,2</sup>、伊藤(後藤) 桜子<sup>1,2</sup>、横山 茂之<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>理研生命分子システム、<sup>2</sup>東大院理)

12:05-12:20 O-24

多くの原核生物と真核生物 tRNA の 37 位には新規修飾塩基

Cyclic *N*<sup>6</sup>-threonylcarbamoyladenine (ct<sup>6</sup>A)が存在する

○ 宮内 健常、木村 聡、鈴木 勉 (東大院・工・化学生命工学)

12:20-12:35 O-25

始原紅藻 *C. merolae* の逆転または高度分断化 tRNA 遺伝子の解析

○ 相馬 亜希子<sup>1,3</sup>、菅原 潤一<sup>2</sup>、小野寺 瑛宣<sup>3</sup>、谷内江 望<sup>2,4</sup>、

金井 昭夫<sup>2</sup>、関根 靖彦<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 千葉大学、<sup>2</sup> 慶応大学、<sup>3</sup> 立教大学、<sup>4</sup> トロント大学、

12:35-13:30 昼食

13:30-15:00 ポスターセッション(2)偶数番号発表

---

15:00-15:50 シンポジウム2 RNA 疾患研究の最前線

座 長 片岡 直行(京都大学)

S8 神経筋疾患のゲノミクスと分子標的治療

○戸田達史<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 神戸大学大学院 医学研究科 神経内科学／分子脳科学)

---

15:50-16:00 コーヒーブレイク

---

16:00-17:00 日本学士院学術奨励賞受賞記念講演

座 長 廣瀬 哲郎(産総研)

S9 small RNA の生化学

○泊 幸秀<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学分子細胞生物学研究所、<sup>2</sup> 東京大学大学院新領域創成  
科学研究科メディカルゲノム専攻)

---

17:00-18:00 日本 RNA 学会総会

18:30-21:00 懇親会<本丸会館>

7 月 20 日 (金)

---

9:10-10:45 Session 6 【発生と分化】

座 長 中川 真一(理研)

---

9:10- 9:15 Overview 中川 真一(理研)

9:15- 9:45 S10

マウス生殖細胞分化における Nanos2 を介した RNA 制御機構

○ 相賀 裕美子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 国立遺伝学研究所)

9:45-10:00 O-26

次世代シーケンサーを用いたヨーロッパアカブトエビの  
miRNA の同定と発生過程における発現解析

○池田香織<sup>1,2</sup>, 広瀬友香<sup>1,2</sup>, 平岡桐子<sup>1</sup>, 野呂絵美子<sup>1</sup>,  
藤島皓介<sup>1,3</sup>, 冨田勝<sup>1,2</sup>, 金井昭夫<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 慶應義塾大学先端生命科学研究所, <sup>2</sup> 慶應義塾大学政策・  
メディア研究科, <sup>3</sup> NASA Ames Research Center)

10:00-10:15 O-27

哺乳動物 RNase H2 はゲノム安定性に必須である

○柏原真一<sup>1</sup>、豊島博子<sup>1</sup>、石橋直子<sup>1</sup>、中西友子<sup>1</sup>、村山祐士<sup>1</sup>、  
依馬正次<sup>2</sup>、高橋 智<sup>2</sup>、馬場 忠<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 筑波大・院・生命環境、<sup>2</sup> 筑波大・院・人間総合)

10:15-10:30 O-28

P ボディ因子 Edc3 はショウジョウバエ卵形成における *oskar* mRNA の局在  
と翻訳を制御する

○加藤 容子<sup>1</sup>, 谷川 明恵<sup>1</sup>, 新名主 カオリ<sup>2</sup>、中村 輝<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 理研 CDB 生殖系列研究チーム、<sup>2</sup> 理研 CDB 質量分析ユニット)

10:30-10:45 O-29

神経軸索におけるマイクロ RNA オミクスにより同定された miRNA-720 は  
神経栄養因子による軸索伸長に関与する

○ 佐々木 幸生<sup>1,2</sup>、Lei Xing<sup>2</sup>、Christina Gross<sup>2</sup>、五嶋 良郎<sup>1</sup>,

Gary J. Bassell<sup>2</sup>  
(横浜市大院・医・分子薬理神経生物<sup>1</sup>、エモリー大・医・細胞生物<sup>2</sup>)

10:45-11:00 コーヒーブレイク

---

11:00-14:15 Session 7 【リボソームと翻訳制御】

座 長 内海 利男(新潟大)、富田 野乃(東大)

---

11:00-11:05 Overview 富田 野乃(東大)

11:05-11:20 O-30

真正細菌には二つのタイプの 100S リボソームが存在する

○ 上田雅美<sup>1</sup>、和田千恵子<sup>1</sup>、加藤貴之<sup>2</sup>、宮田知子<sup>2</sup>、橋本哲夫<sup>3</sup>、  
吉田秀司<sup>4</sup>、左子芳彦<sup>5</sup>、大福高史<sup>5</sup>、別所義隆<sup>6</sup>、北村彩<sup>6</sup>、大庭良介<sup>7</sup>、森川一也<sup>7</sup>、難波啓一<sup>2</sup>、和田明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 吉田生物研・バイオ情報、<sup>2</sup> 阪大・生命機能、<sup>3</sup> 筑波大・生命環境科学、<sup>4</sup> 大阪医大・物理、<sup>5</sup> 京大・院農、<sup>6</sup> 理研・SPRING-8、<sup>7</sup> 筑波大・医学医療系)

11:20-11:35 O-31

真核生物における翻訳伸長機構

○ 富田(竹内)野乃<sup>1</sup>、林光<sup>1</sup>、西村聡<sup>1</sup>、小谷哲也<sup>1</sup>、宇都宮駿<sup>1</sup>、  
石橋正成<sup>1</sup>、上田卓也<sup>1</sup>、伊藤耕一<sup>1</sup>、梶昭<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 東大院・新領域、<sup>2</sup> ペンシルバニア大学・医学部)

11:35-11:50 O-32

The first translocation in *trans*-translation

Kazuma Takada<sup>1</sup>, Daisuke Kurita<sup>2</sup>, Chieko Naoe<sup>1</sup>, Takashi Yokogawa<sup>3</sup>,  
Masahito Kawazoe<sup>1</sup>, Akira Muto<sup>2</sup>, Shigeyuki Yokoyama<sup>1</sup>, Hyouta  
Himeno<sup>2</sup>, ○Chie Takemoto<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>RIKEN Yokohama Institute, SSBC, <sup>2</sup>Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University, <sup>3</sup>Faculty of Engineering, Gifu University)

11:50-12:05 O-33

mRNA 配列に制御された翻訳終結反応の解析

○ 高橋 俊太郎<sup>1</sup>、上田 卓也<sup>2</sup>、岡畑 恵雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東工大院生命理工、<sup>2</sup>東大院新領域)

12:05-13:00 昼食

13:00-13:15 O-34

植物の uORF にコードされるペプチドが関与する翻訳制御機構の多様性

竹本まり子<sup>1</sup>、渡部 峻<sup>2</sup>、蝦名 績<sup>2</sup>、小山博彰<sup>1</sup>、遠洞弥生<sup>3</sup>、瀬戸隆太<sup>3</sup>、  
戸田智美<sup>3</sup>、山形聡彦<sup>3</sup>、村上佳鈴<sup>3</sup>、高橋広夫<sup>4</sup>、高橋アンナ<sup>4</sup>、内藤 哲<sup>1,2</sup>、

○ 尾之内均<sup>1,5</sup>

(<sup>1</sup>北大・院農、<sup>2</sup>北大・院生命科学、<sup>3</sup>北大・農、<sup>4</sup>中部大・応用  
生物、<sup>5</sup>JST・CREST)

13:15-13:30 O-35

Regulation of polysome assembly on the endoplasmic reticulum by  
a coiled-coil protein, p180

○ Tomonori Ueno<sup>1</sup>, Shunji Hattori<sup>1,2</sup> and Kiyoko Ogawa-Goto<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>Nippi Research Institute of Biomatrix, <sup>2</sup>Japan Institute of Leather Research)

13:30-13:45 O-36

Ccr4 と Pbp1 は Rho GAP, Lrg1 の発現制御に関わる

○ 木村 雄一、入江 賢児

(筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

13:45-14:00 O-37

リボソーム翻訳伸長時のサブユニット回転と tRNA

ハイブリッド状態形成機構—粗視化分子動力学計算—

○ 堀 直人、高田 彰二

(京都大学理学研究科)

14:00-14:15 O-38

翻訳初期段階におけるペプチジル tRNA の脱落と校正機構

○ 長尾 翌手可<sup>1</sup>、戸谷 尊文<sup>1</sup>、宮内 健常<sup>1</sup>、坂口裕理子<sup>1</sup>、鈴木 勉<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 東大・工・化学生命工学)

14:15-14:30 コーヒーブレイク

---

14:30-16:05 Session 8 【プロセッシングと輸送局在】

座 長 甲斐田 大輔(富山大)、芳本 玲(理研)

---

14:30-14:35 Overview 甲斐田 大輔(富山大)

14:35-14:50 O-39

スプライシング阻害が RNA ポリメラーゼ II の活性に与える影響

○ 古賀 光徳<sup>1</sup>、甲斐田 大輔<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 富山大、先端ライフサイエンス)

14:50-15:05 O-40

普遍的に発現する RNA ポリメラーゼ II 会合タンパク質 LST-3 は mRNA 前駆体の転写と選択的スプライシングを制御する

○ 黒柳 秀人<sup>1</sup>、都甲 麻理奈<sup>1</sup>、渡辺 要平<sup>1</sup>、萩原 正敏<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup> 東京医科歯科大学、<sup>2</sup> 京都大学)

15:05-15:20 O-41

Role of m6A demethylase in spermatogenesis via regulation of RNA processing

○ Yamei Niu<sup>1</sup>, Guanqun Zheng<sup>2</sup>, John Arne Dahl<sup>3</sup>, Chun-Min Huang<sup>1</sup>, Ye Fu<sup>2</sup>, Yue Shi<sup>1</sup>, Shu-Hui Song<sup>4</sup>, Arne Klungland<sup>3</sup>, Chuan He<sup>2</sup>, Yun-Gui Yang<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Genome Structure & Stability Group, BIG CAS-OSLO Genome Research Cooperation, Disease Genomics and Individualized Medicine Laboratory, Beijing Institute of Genomics, Chinese Academy of Sciences, <sup>2</sup>Department of Chemistry and Institute for Biophysical Dynamics, The University of Chicago, <sup>3</sup>Centre for Molecular Biology and Neuroscience and Institute of Medical Microbiology, BIG CAS-OSLO Genome Research Cooperation, Oslo University Hospital Rikshospitalet, <sup>4</sup>Core Genomic Facility, Beijing Institute of Genomics, Chinese Academy of Sciences

15:20-15:35 O-42

線虫 EJC 中核因子 Y14 はスプライシング未完了 RNA の核外輸送を防ぐ

○椎森 仁美、井上 邦夫、坂本 博

(神戸大学・院理・生物学)

15:35-15:50 O-43

hnRNP C 四量体はキャップ近傍における輸送複合体形成を制御する。

○マクロースキー 亜紗子<sup>1</sup>、谷口 一郎<sup>1</sup>、大野 睦人<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>京都大学ウイルス研究所)

15:50-16:05 O-44

運動神経変性疾患に共通するスプライソソーム異常

○築地 仁美<sup>1</sup>、井口 洋平<sup>2</sup>、古屋 亜佐子<sup>1</sup>、片岡 礼音<sup>1</sup>、

村山 繁雄<sup>3</sup>、祖父江 元<sup>2</sup>、山中 宏二<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>理化学研究所 脳科学総合研究センター 運動ニューロン変性研究チーム、

<sup>2</sup>名古屋大学 医学部 神経内科、<sup>3</sup>東京都健康長寿医療センター)

16:05-16:10 閉会の挨拶 年会長 稲田 利文(東北大・薬)

## 第 14 回 日本 RNA 学会年会 ポスターセッション

ポスターセッション(1) 奇数番号発表: 7 月 18 日(水) 13:30-15:00

ポスターセッション(2) 偶数番号発表: 7 月 19 日(木) 13:30-15:00

P-1-----

Drosophila 生殖組織の体細胞由来培養細胞株(OSC)を用いた  
ミトコンドリア局在タンパク質 dGasz の生化学的解析

○ 大谷仁志<sup>1</sup> 齋藤都暁<sup>1</sup> 川村啓貴<sup>3</sup> 塩見美喜子<sup>1,2,3</sup> 塩見春彦<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>慶應・医・分子生物, <sup>2</sup>JST, CREST, <sup>3</sup>東京大学大学院理学系研究科)

P-2-----

pre-miRNA の deep sequencing 手法と解析

○川野光興、マックスウェル バローズ

P-3-----

小分子 RNA を介した翻訳抑制と Raptor の役割

○山崎 朋人<sup>1</sup>、Heriberto Cerutti<sup>2</sup>、大濱 武<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>高知工科大学、<sup>2</sup>University of Nebraska-Lincoln)

P-4-----

Serratia marcescens における small RNA によるキチン分解利用  
系の制御

鈴木 一史<sup>1,2</sup>、清水 麻里<sup>2</sup>、佐々木 直美<sup>2</sup>、小川 知佐奈<sup>2</sup>、杉本 華幸<sup>1,2</sup>、渡邊剛  
志<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>新潟大・農・応生化、<sup>2</sup>新潟大院・自然科学)

P-5-----

Prediction of local regulations of miRNA by *in situ* hybridization of  
whole brain

○ Risa Kawaguchi<sup>1</sup>, Hisanori Kiryu<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> Department of Computational Biology, Faculty of Frontier Science,  
The University of Tokyo.)

P-6-----

mir-140-/-マウスの軟骨特異的な表現型レスキュー実験

○佐藤 天平<sup>1,2</sup>、味八木 茂<sup>3</sup>、浅原 弘嗣<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京医科歯科大学大学院、<sup>2</sup> 国立成育医療研究センター、  
<sup>3</sup> 広島大学大学院)

P-7-----

シロイヌナズナダイサーDCL3 および DCL4 の酵素活性の比

○長野 秀昭<sup>1</sup>、福留 章仁<sup>1</sup>、中澤 悠宏<sup>1</sup>、平栗 章弘<sup>1</sup>、森山 裕充<sup>1</sup>、  
福原 敏行<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東京農工大学)

P-8-----

ショウジョウバエ piRNA 因子 *maelstrom* の機能解析

○佐藤 薫<sup>1</sup>、松本直樹<sup>2</sup>、西増弘志<sup>2</sup>、濡木 理<sup>2</sup>、塩見春彦<sup>1</sup>、  
塩見美喜子<sup>2,3</sup>

(<sup>1</sup> 慶應義塾大学医学部分子生物学教室、<sup>2</sup> 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻、<sup>3</sup> JST, CREST)

P-9-----

TNRC6 による翻訳・ポリ(A)鎖非依存の新規発現抑制機構  
の解析

○牧野 支保<sup>1</sup>、三嶋 雄一郎<sup>2</sup>、井上 邦夫<sup>2</sup>、稲田 利文<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東北大・院薬、<sup>2</sup> 神戸大・院理)

P-10-----

ウイルス由来 microRNA による潜伏感染と上皮間葉移行  
の制御

○ 飯笹久<sup>1</sup>、吉山裕規<sup>2</sup>、西倉和子<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 北海道大学遺伝子病制御研究所幹細胞生物学分野、<sup>2</sup> 北海道大学遺伝子病制御研究所付属感染癌センター、<sup>3</sup> ウィスター研究所)

P-11-----

シロイヌナズナ ARGONAUTE7 の RISC 形成過程の解析

○ 遠洞 弥生<sup>1,2</sup>、岩川 弘宙<sup>1</sup>、泊 幸秀<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学分子細胞生物学研究所、<sup>2</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻)

P-12-----

コモンマーモセットを用いた霊長類 PIWIL1 の機能解析

○ 平野孝昌<sup>1</sup>、Zachary Yu-Ching Lin<sup>2</sup>、今村公紀<sup>2</sup>、芝田晋介<sup>2</sup>、  
關菜央美<sup>3</sup>、岡野栄之<sup>2,4</sup>、塩見美喜子<sup>1,3,5</sup>、塩見春彦<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 慶應義塾大学医学部分子生物学教室 <sup>2</sup> 慶應義塾大学医学部生理学教室 <sup>3</sup> 東京大学理学部生物化学科 <sup>4</sup> 最先端研究開発支援プログラム <sup>5</sup> 戦略的創造研究推進事業 CREST)

P-13-----

ポリ A 鎖除去酵素 AtCCR4 は植物のショ糖代謝に重要であ

○ 鈴木 悠也<sup>1</sup>、Pamela J. Green<sup>2</sup>、山口 淳二<sup>1,3</sup>、千葉 由佳子<sup>1,4</sup>

(<sup>1</sup> 北大院・生命、<sup>2</sup> Delaware Biotech. Inst., Univ. Delaware, <sup>1,3</sup> 北大院・理、<sup>1,4</sup> 北大・創成)

P-14-----

麹菌における異種遺伝子由来転写産物のコドン最適化による安定化

○ 田中 瑞己<sup>1</sup>、徳岡 昌文<sup>1</sup>、新谷 尚弘<sup>1</sup>、五味 勝也<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東北大院・農)

P-15-----

非正準ポリ(A)ポリメラーゼ PAPD7 の新規アイソフォームの同定と機能解析

○ 尾上 耕一<sup>1</sup>、市川 史<sup>1</sup>、星野 真一<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 名市大・院薬・遺伝情報学)

P-16-----

ヒト核内エキソソームはアデニン鎖の付加された RNA 基質を分解する

○藤原奈央子<sup>1</sup>、程開明<sup>1</sup>、永尾雅哉<sup>1</sup>、神戸大朋<sup>1</sup>、宮前友策<sup>1</sup>、

増田誠司<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 京都大学大学院生命科学研究科統合生命科学専攻)

P-17-----

Quality control systems for aberrant products derived from mRNAs  
containing a specific premature termination codon in yeast

○Kazushige Kuroha<sup>1</sup>, Toshifumi Inada<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University)

P-18-----

Dom34:Hbs1 は mRNA 上で停滞したリボソームを終止コドン  
非依存的に解離する

○工藤 和兵<sup>1</sup>、坪井達久<sup>1</sup>、黒羽一誠<sup>1</sup>、牧野支保<sup>1</sup>、井上絵里<sup>1</sup>、鹿島勲<sup>1</sup>、

稲田利文<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東北大・院薬)

P-19-----

シロイヌナズナの低温ストレス応答に関連した mRNA 制御  
システム

○千葉由佳子<sup>1,4</sup>、峯田克彦<sup>2</sup>、平井優美<sup>3</sup>、鈴木悠也<sup>4</sup>、金谷重彦<sup>5</sup>、  
高橋広夫<sup>6</sup>、尾之内均<sup>7</sup>、山口淳二<sup>4,8</sup>、内藤 哲<sup>4,7</sup>

(<sup>1</sup> 北大・創成, <sup>2</sup> 北大院・情報, <sup>3</sup> 理研・植物センター, <sup>4</sup> 北大院・生命

<sup>5</sup> 奈良先端大学院・情報, <sup>6</sup> 中部大・応用生物, <sup>7</sup> 北大院・農, <sup>8</sup> 北大院・理)

P-20-----

真核生物リボソームの品質管理に関わる新たな因子の探索

○佐野 広大<sup>1</sup>、北畠 真<sup>1</sup>、大野 睦人<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 京都大学ウイルス研究所)

P-21-----

Analysis of archaeal RNase E-like protein, FAU-1 in *Pyrococcus furiosus*.

○Yoshiki Ikeda<sup>1,2</sup>, Shinnosuke Murakami<sup>2</sup>, Asako Sato<sup>1</sup>, Masaru Tomita<sup>1,2</sup>,  
Akio Kanai<sup>1,2,3</sup>

(<sup>1</sup>Inst. Adv. Biosci., Keio Univ., <sup>2</sup>Syst. Biol. Prog. Grad. Sch.

Media & Governance, Keio Univ.)

P-22-----

高度好熱菌リボヌクレアーゼの網羅的機能解析

○大山 礼雅<sup>1</sup>、上利 佳弘<sup>2</sup>、福井 健二<sup>2</sup>、中川 紀子<sup>1,2</sup>、新海 暁男<sup>2</sup>、  
倉光 成紀<sup>1,2</sup>、増井 良治<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 阪大・院理・生物科学、<sup>2</sup> 理研・播磨研)

P-23-----

The Selective Elimination of Meiotic mRNAs in Fission Yeast

○Tomoyasu Sugiyama<sup>1</sup>, Nobuyoshi Watanabe, Rie Sugioka-Sugiyama,  
and Tokio Tani<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba,

<sup>2</sup>Faculty of Science, Kumamoto University)

P-24-----

mRNA surveillance approaches clinic.

○Akio Yamashita<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>Department of Molecular Biology, Yokohama City University School  
of Medicine)

P-25-----

翻訳アレスト依存的 NGD と mRNA 二次構造による NGD は  
異なる機構によって生じる

○池内 健<sup>1</sup>、稲田 利文<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東北大・院薬)

P-26-----

大腸菌小分子 RNA の機能的 Hfq 結合モジュールの決定

○森田鉄兵<sup>1</sup>、石川博一<sup>2</sup>、大鷹弘紀<sup>2</sup>、牧貴美香<sup>2</sup>、饗場弘二<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 鈴鹿医療科学大・薬、<sup>2</sup> 名大・院理)

P-27-----

SWI/SNF クロマチン再構築複合体による非コード RNA  
の転写制御を介したパラスペックル構造構築機構の解析

○川口 哲哉<sup>1</sup>、長沼 孝雄<sup>1</sup>、佐々木 保典<sup>1</sup>、廣瀬 哲郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>産総研 BIRC)

P-28-----

4.5SH RNA による核内繫留を介した遺伝子発現制御における  
dsRNA 結合タンパク質 Hf3 の役割

○ 石田 賢太郎、中川 真一  
(理化学研究所 基幹研究所)

P-29-----

病原性大腸菌 O157:H7 Sakai 株に存在する non-coding RNA #41  
の機能解析

○須藤直樹<sup>1</sup>、相馬亜希子<sup>2</sup>、伊豫田淳<sup>3</sup>、齊藤泰一<sup>1</sup>、大島拓<sup>4</sup>、戸邊亨<sup>5</sup>、  
関根靖彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup>立教大・理・生命理学、<sup>2</sup>千葉大・園芸、<sup>3</sup>国立感染症研究所・  
細菌第一部、<sup>4</sup>奈良先端大・情報科学、<sup>5</sup>大阪大院・医)

P-30-----

枯草菌ストレスシグマ因子 SigB 制御下にある sRNA

○堀 博<sup>1</sup>、山本 達也<sup>1</sup>、中村 幸治<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>筑波大院・生命環境科学、<sup>2</sup>筑波大学・生命環境系)

P-31-----

大腸癌においてエピジェネティックに抑制されている長鎖  
ncRNA の網羅的同定の試み

○条川 昂平<sup>1</sup>、丸山 玲緒<sup>1</sup>、山本 英一郎<sup>2</sup>、佐藤 亜紀子<sup>1</sup>、甲斐 正広<sup>1</sup>、  
鈴木 拓<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>札幌医科大学医学部分子生物学講座、<sup>2</sup>札幌医科大学医学部内科学  
第一講座)

P-32-----

RNA に依存して形成される新規核内構造体の探索

○萬年 太郎<sup>1</sup>、五島 直樹<sup>1</sup>、廣瀬 哲郎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>産総研・バイオメディシナル)

P-33-----

セントロメアヘテロクロマチン形成における *dg ncRNA*

イントロンの役割

○牟田園 正敏<sup>1</sup>、森田 京<sup>1</sup>、弓掛 辰洋<sup>1</sup>、塚原 千紘<sup>1</sup>、知念 まどか<sup>1</sup>、

中山 潤一<sup>2</sup>、石井 浩二郎<sup>3</sup>、井手上 賢<sup>1</sup>、谷 時雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>熊本大学大学院 自然科学研究科 生命科学講座、<sup>2</sup>名古屋市立大学  
大学院 システム自然科学研究科、<sup>3</sup>大阪大学大学院 生命機能研究科  
染色体機能制御研究室)

P-34-----

Long non-coding RNA による転写制御の RNA-seq 解析

○小田有沙<sup>1</sup>、竹俣直道<sup>2</sup>、鈴木穰<sup>3</sup>、菅野純夫<sup>3</sup>、太田邦史<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻、<sup>2</sup> 東京大学大学院総合文化科  
広域科学専攻、<sup>3</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻)

P-35-----

標的遺伝子の発現を抑制する核小体低分子 RNA の構築

○川本 崇仁<sup>1</sup>、小山 唯<sup>1</sup>、弟子丸 正伸<sup>1</sup>、福田 将虎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>福岡大・理・化学)

P-36-----

ノンコーディング RNA *NEAT1* の *Xenopus* オーソログ

○佐々木保典<sup>1</sup>、小川朝子<sup>2</sup>、谷川明恵<sup>1</sup>、小沼泰子<sup>2</sup>、伊藤弓弦<sup>2</sup>、廣瀬哲郎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>産総研・バイオメディシナル情報、<sup>2</sup>産総研・幹細胞工学)

P-37-----

分裂酵母の減数分裂に必須な non-coding RNA である meiRNA  
の核内ドット形成機構の解析

○七野 悠一<sup>1,2</sup>、山下 朗<sup>1</sup>、山本 正幸<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>かずさDNA 研究所、<sup>2</sup>東大・院理・生化)

P-38-----

核内構造体構築に必要な noncoding RNA の選択的 3'末端  
プロセシングの分子機構

○長沼孝雄<sup>1</sup>、谷川明恵<sup>1</sup>、廣瀬哲郎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>産総研・バイオメディシナル)

P-39-----

SRP19 タンパク質と RNA との相互作用解析

○野口 一謹<sup>1</sup>、原口 由生<sup>1</sup>、松田 崇志<sup>1</sup>、河合 剛太<sup>1</sup>、中村 幸治<sup>2</sup>、  
由良 敬<sup>3</sup>、金井 昭夫<sup>4</sup>、坂本 泰一<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>千葉工大・工、<sup>2</sup>筑波大大学院・生命環境、<sup>3</sup>お茶の水女子大大学院・  
人間文化創成、<sup>4</sup>慶應大・先端生命研)

P-40-----

RNA アプタマーと AML1 Runt domain の相互作用解析

○天野亮<sup>1</sup>、野村祐介<sup>1,2,3</sup>、永田崇<sup>4</sup>、福永淳一<sup>2,5</sup>、田中陽一郎<sup>2,5</sup>、  
片平正人<sup>4</sup>、中村義一<sup>2,6</sup>、神津知子<sup>2,5</sup>、坂本泰一<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>千葉工業大学、<sup>2</sup>CREST、<sup>3</sup>東京理科大学、<sup>4</sup>京都大学、<sup>5</sup>埼玉県立がん  
センター、<sup>6</sup>東京大学医科学研究所)

P-41-----

塩基部を化学修飾したリボヌクレオシド三リン酸の合成と

RNA ポリメラーゼによる取り込み能の評価

○山崎一史<sup>1</sup>・角田浩佑<sup>1</sup>・石井希<sup>1</sup>・金森功吏<sup>1,2</sup>・大窪章寛<sup>1</sup>・  
清尾康志<sup>1</sup>・関根光雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東京工業大学 分子生命科学専攻、<sup>2</sup>東京工業大学情報生命博士教育院)

P-42-----

カノニカル分布に基づいた RNA 二次構造安定性解析手法  
の開発

○森 遼太<sup>1</sup>、浜田 道昭<sup>1,2</sup>、浅井 潔<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科、<sup>2</sup>産業技術総合研究所生命情  
工学研究センター)

P-43-----

新たなクロスリンカー含有非天然型アミノ酸のタンパク質  
への部位特異的導入と、その広域性光クロスリンク能

○柳沢達男<sup>1</sup>、樋野展正<sup>1</sup>、伊良波史枝<sup>1</sup>、向井崇人<sup>1</sup>、坂本健作<sup>1</sup>、  
横山茂之<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup> 理研・生命分子システム、<sup>2</sup> 東大・院理・構造生物)

P-44-----

T7 RNA ポリメラーゼを導入した*Rhodobacter capsulatus*に  
よる機能性RNAの生産

○横田 哲朗<sup>1</sup>、藤田 能亘<sup>1</sup>、鈴木 宏道<sup>1</sup>、長尾 信義<sup>1</sup>、梅影 創<sup>1</sup>、  
菊池 洋<sup>1</sup>(<sup>1</sup>豊橋技科大・環境・生命工学)

P-45-----

スperlミン結合 RNA アプタマーのバルジ構造の重要性

○小黑明広<sup>1</sup>、石倉雅治<sup>1</sup>、松藤千弥<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 慈恵医大・分子生物学)

P-46-----

AML1 Runt domain に結合する RNA アプタマーの改良

○野村祐介<sup>1,2,3</sup>、山崎 香<sup>1</sup>、福永淳一<sup>2,4</sup>、田中陽一郎<sup>2,4</sup>、中村義一<sup>2,5</sup>、  
神津知子<sup>2,4</sup>、坂本泰一<sup>2,3</sup>、鳥越秀峰<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 東京理科大学, <sup>2</sup>CREST, <sup>3</sup> 千葉工業大学, <sup>4</sup> 埼玉県立がんセンター,  
<sup>5</sup> 東京大学医科研)

P-47-----

RNA 構造スクリーニングのための NMR 試験管内転写法  
の開発

○奥居沙弥<sup>1</sup>、牛田千里<sup>2</sup>、清澤秀孔<sup>3</sup>、河合剛太<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 千葉工業大学工学部 生命環境科学科, <sup>2</sup> 弘前大学農学生命科学部  
分子生命科学科, <sup>3</sup> 高知大学医学部)

P-48-----

半教師あり学習を用いた RNA 二次構造予測アルゴリズム  
の提案

○米本 悠<sup>1</sup>、浜田 道昭<sup>1,2</sup>、浅井 潔<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科、<sup>2</sup> 産業技術総合研究所生命  
情報工学研究センター)

P-49-----

2 分子型 *Tetrahymena* グループ I イントロンを基盤とする  
ペプチド連結システムの構築

○田中 貴大、古田 弘幸、井川 善也

(九大院工)

P-50-----

NMR による鎖長 100 残基を超える機能性 RNA の立体構造  
解析手法の開発

○大山貴子<sup>1</sup>、河合剛太<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 千葉工業大学工学部・生命環境科学科)

P-51-----

*In vitro* セレクションを用いた生体内小分子に結合する

ヒト small non-coding RNA の探索

○寺坂 尚紘<sup>1</sup>、二井 一樹<sup>1</sup>、加藤 敬行<sup>1</sup>、後藤 佑樹<sup>1</sup>、菅 裕明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東大・院理・化)

P-52-----

Tethering of Proteins to RNAs using the BIV-Tat peptide and  
BIV-TAR RNA

○Motoaki Wakiyama<sup>1</sup>, Yoko Kaitsu<sup>1</sup>, Reiko Muramatsu<sup>1</sup>, Koji Takimoto<sup>1</sup>,  
Shigeyuki Yokoyama<sup>1,2</sup>

P-53-----

5'末端修飾と架橋されたリン酸バックボーンを有する

オリゴヌクレオチドの合成とその miRNA 検出への応用

○飯島 良紘<sup>1</sup>、兒玉 恵里佳<sup>1</sup>、黒萩 早耶子<sup>1</sup>、金森 功吏<sup>1,2</sup>、角田 浩佑<sup>1</sup>

大窪 章寛<sup>1</sup>、関根 光雄<sup>1</sup>、清尾 康志<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東京工業大学 分子生命科学専攻、<sup>2</sup>東京工業大学 情報生命博士  
教育院)

P-54-----

Lin28 の Zn フィンガードメインに対する RNA アプタマー  
の解析

○栗原 知久<sup>1</sup>、高橋 真梨<sup>2</sup>、田中 陽一郎<sup>3</sup>、平川 真未<sup>1</sup>、染谷 龍彦<sup>2</sup>、  
桑迫 香奈子<sup>2</sup>、津田 健吾<sup>2</sup>、He Fahu<sup>2</sup>、渡部 暁<sup>2</sup>、原田 拓志<sup>2</sup>、井上 真<sup>2</sup>、寺田 貴  
帆<sup>2</sup>、白水 美香子<sup>2</sup>、木川 隆則<sup>2,4</sup>、横山 茂之<sup>2,5</sup>、武藤 裕<sup>2</sup>、坂本 泰一<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>千葉工大・工、<sup>2</sup>理研 SSBC、<sup>3</sup>横浜国大、<sup>4</sup>東工大大学院、<sup>5</sup>東大大学院)

P-55-----

カリウムイオン濃度を感知して活性がオンになるインテリ  
ジェントリボザイムの創製

○山置 佑大<sup>1,2</sup>、真嶋 司<sup>1,2</sup>、櫻井 佑<sup>3</sup>、原 ゆかり<sup>3</sup>、永田 崇<sup>1,2</sup>  
片平 正人<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>京都大学・エネルギー理工学研究所、<sup>2</sup>京都大学・エネルギー科学  
研究科、<sup>3</sup>横浜市立大学・生命ナノシステム科学研究科)

P-56-----

NMR 分光法による RNA 分子の局所構造プローブ法の開発

○芦原 悠太<sup>1</sup>、河原 郁美<sup>1</sup>、春田佳一郎<sup>1</sup>、根東 義則<sup>1</sup>、児嶋長次郎<sup>2</sup>  
、石川隼也<sup>3</sup>、井川 善也<sup>3</sup>、田中 好幸<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東北大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup>大阪大学蛋白質研究所、<sup>3</sup>九州大学大学院工学研  
究院)

P-57-----

RNA ウイルスの宿主依存機構を知るための宿主 RNA との  
類似領域の検出

○岩崎 裕貴<sup>1</sup>、秋葉 太貴<sup>1</sup>、小倉 歩<sup>1</sup>、阿部 貴志<sup>2</sup>、和田 健之介<sup>1</sup>、  
伊藤 正恵<sup>1</sup>、池村 淑道<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>長浜バイオ大学、<sup>2</sup>新潟大学)

P-58-----

ゼブラフィッシュ生殖顆粒構成因子 Granulito タンパク質の  
機能解析

○稲川 陽介<sup>1</sup>、金村 節子<sup>1</sup>、三嶋 雄一郎<sup>1</sup>、前川 真吾<sup>2</sup>、坂本 博<sup>1</sup>、  
井上 邦夫<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>神戸大学・理・生物、<sup>2</sup>京都大学・情報学・知能情報)

P-59-----

間葉系幹細胞分化のマスターレギュレーター転写因子による、  
マイクロ RNA を介した細胞分化制御

○水野 洋介<sup>1</sup>、仲地 豊<sup>2</sup>、徳澤 佳美<sup>1</sup>、八塚由紀子<sup>1</sup>、岡崎 康司<sup>1,2</sup>  
(埼玉医科大学ゲノム医学研究センター<sup>1</sup>ゲノム科学部門、<sup>2</sup>トランスレー  
ショナルリサーチ部門)

P-60-----

ブタ皮下脂肪細胞の分化成熟過程における miR-33b の効果

○谷口 雅章<sup>1</sup>、中島 郁世<sup>2</sup>、栗田 崇<sup>1</sup>、美川 智<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>農業生物資源研究所、<sup>2</sup>畜産草地研究所)

P-61-----

CNOT3 の心臓発生・心機能調節における役割、意義の解析

○久場 敬司<sup>1</sup>、鈴木 享<sup>1</sup>、佐藤 輝紀<sup>1</sup>、中山 瑞穂<sup>1</sup>、山本 雅<sup>2</sup>、  
今井 由美子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>秋田大学大学院医学系研究科 情報制御学・実験治療学講座、<sup>2</sup>沖縄  
科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット)

P-62-----

血管内皮細胞における可溶型 Flt-1 (可溶型 VEGF 受容体-1)  
mRNA 選択的 3'端プロセシング機構の解析

○池田 崇之<sup>1</sup>, 吉富 泰央<sup>1</sup>, 石垣 靖人<sup>2</sup>, 吉竹 佳の<sup>1</sup>, 米倉 秀人<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 金沢医科大学医学部生化学 □、<sup>2</sup> 金沢医科大学総合医学研究所)

P-63-----

RNA 結合性蛋白質 NF90-NF45 複合体による新たな筋分化  
制御機構

○戸高 寛<sup>1,2</sup>, 樋口琢磨<sup>1,2</sup>, 森澤啓子<sup>1</sup>, 矢生健一<sup>1</sup>, 池恩燮<sup>1</sup>, 山口史佳<sup>1</sup>,  
福島敦樹<sup>3</sup>, 津田雅之<sup>4</sup>, 杉山康憲<sup>1</sup>, 谷口武利<sup>1</sup>, 坂本修士<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 高知大・総合研究セ・分子生物学、<sup>2</sup> 日本学術振興会特別研究員 DC、  
<sup>3</sup> 高知大・医・眼科、<sup>4</sup> 高知大・総合研究セ・動物資源開発分野)

P-64-----

How the non-standard genetic codes are deciphered by tRNA in  
animal mitochondria? --- characterization of mitochondrial tRNAs  
isolated from a squid, *Loligo bleekeri*

Takayuki Ohira<sup>1</sup>, Kenjyo Miyauchi<sup>1</sup>, Takeo Suzuki<sup>1</sup>, Tsutomu Suzuki<sup>1\*</sup>,  
○Shin-ichi Yokobori<sup>2</sup>, Akihiko Yamagishi<sup>2</sup> and Kimitsuna Watanabe<sup>2,3,4\*</sup>  
(○: speaker; \*: corresponding authors)

P-65-----

高度好熱菌 tRNA 中のシュードウリジン 55 修飾は、温度変化  
への適応因子として機能する

富川千恵<sup>1</sup>, 石田一雄<sup>1</sup>, 国林貴史<sup>1</sup>, 越智杏奈<sup>1</sup>, 金井 保<sup>2</sup>, 平田 章<sup>1</sup>,  
岩下知香子<sup>1</sup>, 〇堀 弘幸<sup>1,3</sup>  
(<sup>1</sup> 愛媛大・院理工、<sup>2</sup> 京都大・院工、<sup>3</sup> 愛媛大・ベンチャービジネス  
ラボラトリー)

P-66-----

tRNA硫黄修飾酵素TtuAの機能構造解析

○中川 裕文<sup>1,2</sup>, 倉谷 光央<sup>2</sup>, 伊藤(後藤) 桜子<sup>1,2</sup>, 伊藤 拓宏<sup>1,2</sup>, 関根 俊一<sup>1,2</sup>,  
嶋直樹<sup>3</sup>, 横山 茂之<sup>1,2</sup>,  
(<sup>1</sup> 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻、<sup>2</sup> 理研 SSBC、<sup>3</sup> 産業技術  
総合研究所バイオメディシナル情報研究センター)

P-67-----

tRNA 修飾酵素が主導するマイコプラズマの遺伝暗号解読  
のしくみと進化

○別所 義隆<sup>1</sup>, 北村 彩<sup>1</sup>, Henri Grosjean<sup>2</sup>, 横堀 伸一<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>理研・SPRING-8 センター, <sup>2</sup>University of Paris-Sud11, <sup>3</sup>東京薬大・生命科学)

P-68-----

*Thermoplasma acidophilum* における tRNA 修飾

○河村 卓哉<sup>1</sup>, 富川 千恵<sup>1</sup>, 大平 高之<sup>2</sup>, 井上 仁<sup>3</sup>, 山岸 明彦<sup>3</sup>,  
鈴木 勉<sup>2</sup>, 堀 弘幸<sup>1,4</sup>

(<sup>1</sup>愛媛大・院理工, <sup>2</sup>東大院・工, <sup>3</sup>東京薬科大・極限環境生物学,  
<sup>4</sup>愛媛大 VBL)

P-69-----

サーマス・サーモフィラス由来 tRNA メチル化酵素 TmFO の基質認識  
機構

○山上 龍太<sup>1</sup>, 山下 光輝<sup>1</sup>, 西増 弘志<sup>2</sup>, 富川 千恵<sup>1</sup>, 越智 杏奈<sup>1</sup>, 岩下 智香子<sup>1</sup>, 平田 章<sup>1</sup>,  
石谷隆一郎<sup>2</sup>, 濡木 理<sup>2</sup>, 堀 弘幸<sup>1,3</sup>

(<sup>1</sup>愛媛大学大学院理工学研究科, <sup>2</sup>東京大学大学院理学系研究科, <sup>3</sup>ベンチャー・ビジネス・  
ラボラトリー)

P-70-----

tRNADB-CE: エキスパートがキュレートした tRNA 遺伝子  
データベース

○阿部 貴志<sup>1,2</sup>, 井口 八郎<sup>2</sup>, 木ノ内 誠<sup>3</sup>, 金谷 重彦<sup>4</sup>, 菅原 潤一<sup>5</sup>,  
金井 明夫<sup>5</sup>, 山田 優子<sup>2</sup>, 武藤 昱<sup>6</sup>, 池村 淑道<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>新潟大, <sup>2</sup>長浜バイオ大, <sup>3</sup>山形大, <sup>4</sup>奈良先端大, <sup>5</sup>慶應大, <sup>6</sup>弘前大)

P-71-----

線虫特異的な新しいタイプの tRNA は遺伝暗号を変則的に  
デコードする

○浜島聖文<sup>1</sup>, 藤島皓介<sup>1,2</sup>, 増田 豪<sup>1</sup>, 菅原潤一<sup>1</sup>, 富田勝<sup>1</sup>, 金井昭夫<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>慶應義塾大学先端生命科学研究所, <sup>2</sup>NASA Ames Research Center)

P-72-----

真正細菌 tRNA 硫黄修飾塩基の生合成における  
ユビキチン類似翻訳後修飾の発見とその機能

○嶋 直樹<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>産総研・BIRC)

P-73-----

哺乳類ミトコンドリアのタンパク質翻訳系におけるリボソーム再生機構

○入江遼平、森田寛幸、上田卓也、富田(竹内)野乃

(東京大学新領域創成科学研究科・メディカルゲノム専攻)

P-74-----

16S rRNA の A1408G 変異による薬剤耐性獲得の構造基盤

○近藤 次郎

(上智大学理工学部)

P-75-----

古細菌リボソームストークタンパク質 aP1 と翻訳伸長因子  
aEF-1 $\alpha$  間の相互作用と aEF-1 $\beta$  による調節

○鈴木隆寛<sup>1</sup>、本田貴嘉<sup>1</sup>、佐藤駿平<sup>1</sup>、内海利男<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>新潟大・理・生物)

P-76-----

古細菌リボソームストークタンパク質 aP1 ダイマーは二種類  
の翻訳伸長因子 aEF-1a/aEF-2 を同時に結合する

○本田貴嘉<sup>1</sup>、間瀬透<sup>1</sup>、伊東孝祐<sup>1</sup>、内海利男<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>新潟大・理・生物)

P-77-----

Different regulation of *ROM2* and *LRG1* expression by Khd1, Ccr4,  
Pop2, and Dhh1 in the yeast cell wall integrity pathway

○Xia LI<sup>1</sup>, Kenji IRIE<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>Grad. Sch. of Comprehensive Human Sci. Univ. of Tsukuba)

P-78-----

In vitro 翻訳系において -1 および +1 フレームシフトを  
引き起こす植物ウイルス由来の配列

○薦田(萩原)優香<sup>1</sup>、Sun Hee Choi<sup>1</sup>、中原 健二<sup>1</sup>、内藤 哲<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 北大・院農)

P-79-----

哺乳類ミトコンドリアリボソームの生合成における Mtg1 の機能解析

○小谷哲也<sup>1</sup>、上田卓也<sup>1</sup>、竹内野乃<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科)

P-80-----

mRNA の構造変化および *in vitro* 翻訳活性におよぼす不均一性正電荷  
リボソーム膜の役割

○菅 恵嗣<sup>1</sup>、田中 清志朗<sup>1</sup>、馬越 大<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 大阪大学大学院基礎工学研究科化学工学領域)

P-81-----

tmRNA によるアミノ酸の再生

○中山秀喜<sup>1</sup>、嶋本伸雄<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 京都産業大学・総合生命科学部)

P-82-----

翻訳伸長因子 eEF-1 $\alpha$ /EF-Tu のリボソーム認識領域の解析

○岡澤 亜季<sup>1</sup>、久津見 知<sup>1</sup>、内海 利男<sup>2</sup>、野村 隆臣<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 信州大・繊維・応用生物、<sup>2</sup> 新潟・理・生物)

P-83-----

RNA thermosensor によるコラゲナーゼ毒素遺伝子の翻訳調節

○尾花 望<sup>1</sup>、野村 暢彦<sup>1</sup>、中村幸治<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 筑波大学 生命環境系)

P-84-----

100Sリボソーム形成遺伝子 *rmf* の転写制御

○吉田秀司<sup>1</sup>、島田友裕<sup>2</sup>、牧泰史<sup>1</sup>、古池晶<sup>1</sup>、上田雅美<sup>3</sup>、和田千恵子<sup>3</sup>、  
和田明<sup>3</sup>、石浜明<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>大阪医大・物理, <sup>2</sup>東工大・資源研, <sup>3</sup>吉田生物研, <sup>4</sup>法政大・生命機能)

P-85-----

リボソームの翻訳異常と赤血球形成不全:ゼブラフィッシュ  
の貧血モデルを用いた解析

○上地 珠代<sup>1</sup>、中嶋 由香里<sup>1</sup>、鳥原 英嗣<sup>1</sup>、剣持 直哉<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>宮崎大・フロンティア科学実験総合センター)

P-86-----

Single Molecule Imaging of the trans-translation Entry Process on  
Anchored Ribosome

Zhan-Ping Zhou<sup>1</sup>, Yoshihiro Shimizu<sup>2</sup>, ○Hisashi Tadakuma<sup>1</sup>,  
Hideki Taguchi<sup>3</sup>, Koichi Ito<sup>1</sup> and Takuya Ueda<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Frontier Science, The University of Tokyo, <sup>2</sup>QBIC,  
RIKEN, <sup>3</sup>Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo  
Institute of Technology

P-87-----

シロイヌナズナ *CGSI* mRNA における複数のリボソームの  
停滞:ピューロマイシンを用いた翻訳伸長停止段階の特定

○山下 由衣<sup>1</sup>、門倉 嘉知<sup>1</sup>、佐竹 暁子<sup>2</sup>、尾之内 均<sup>3,4</sup>、内藤 哲<sup>1,3</sup>

(<sup>1</sup>北大・院生命, <sup>2</sup>北大・院環境, <sup>3</sup>北大・院農, <sup>4</sup>JST, CREST)

P-88-----

翻訳フレームシフトの動力学

○宍戸 啓介<sup>1</sup>、高橋 俊太郎<sup>1</sup>、上田 卓也<sup>2</sup>、岡畑 恵雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東工大院生命理工、<sup>2</sup>東大院新領域)

P-89-----

翻訳速度と翻訳異常終結の関連性評価

○廣瀬 敦<sup>1</sup>、高橋 俊太郎<sup>1</sup>、上田 卓也<sup>2</sup>、岡畑 恵雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東工大院生命理工、<sup>2</sup> 東大院新領域)

P-90-----

RNA 修飾の欠損はゼブラフィッシュの初期発生に重大な  
影響を与える

仲嶺 三代美<sup>1,2</sup>、上地 珠代<sup>1</sup>、鈴木 健夫<sup>3</sup>、鈴木 勉<sup>3</sup>、○剣持 直哉<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 宮崎大・フロンティア、<sup>2</sup> 琉球大・医、<sup>3</sup> 東大・工)

P-91-----

双子葉植物間で保存されたペプチド配列を持つ 2 つの  
uORF が関与する翻訳制御機構

○小山博彰<sup>1</sup>、大谷美沙都<sup>2</sup>、高橋広夫<sup>3</sup>、高橋アンナ<sup>3</sup>、内藤 哲<sup>1,4</sup>、  
尾之内均<sup>1,5</sup>

(<sup>1</sup> 北大・院農、<sup>2</sup> 理研、BMEP、<sup>3</sup> 中部大・応用生物、<sup>4</sup> 北大・院生命科学、  
<sup>5</sup> JST・CREST)

P-92-----

異なる生物界間における L11-like リボソームタンパク質の  
細胞内機能互換性の解析

○小暮 剛士<sup>1</sup>、水野 光<sup>1</sup>、内海 利男<sup>2</sup>、野村 隆臣<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 信州大・繊維・応用生物、<sup>2</sup> 新潟大・理・生物)

P-93-----

細菌リボソーム A サイトーシソマイシン複合体の結晶構造

○小金井 麻衣<sup>1</sup>、笠原 朋子<sup>2</sup>、近藤 次郎<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 上智大学理工学研究科、<sup>2</sup> 上智大学理工学部)

P-94-----

IL-33 受容体 ST2L/IL1RL1 遺伝子座における選択的スプライ  
シング

○鴨下信彦<sup>1</sup>、為本浩至<sup>1</sup>、早川盛禎<sup>1</sup>、富永眞一<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 自治医科大学 生化学講座 病態生化学部門)

P-95-----

PUF60 は筋分化特異的な選択的スプライシングの調節因子であり、筋発生に必要である

○片岡 直行<sup>1</sup>、野島 孝之<sup>2</sup>、大城—井手上 杜子<sup>3</sup>、武内 章英<sup>4</sup>、喜井 勲<sup>4</sup>、萩原 正敏<sup>4</sup>

(<sup>1</sup> 京都大・医・MIC、<sup>2</sup> オックスフォード大、<sup>3</sup> 熊本大・発生医学研、

<sup>4</sup> 京都大・医・形態形成)

P-96-----

線虫SL1トランス-スプライシングは生殖細胞でより活発？

加藤新<sup>1</sup>、佐藤洋旭<sup>1</sup>、高橋大輝<sup>1</sup>、姫野俵太<sup>1, 2, 3</sup>、武藤昱<sup>1</sup>、○牛田千里<sup>1, 2, 3</sup>

(<sup>1</sup> 弘前大学農学生命科学部分子生命科学科、<sup>2</sup> 弘前大学農学生命科学部RNA研究センター、<sup>3</sup> 岩手大学連合大学院農学研究科)

P-97-----

新規オリゴデンドロサイト分化・成熟調節因子としての  
hnRNP A1

○眞部 孝幸<sup>1</sup>、森川 智美<sup>1</sup>、前田 明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 遺伝子発現機構学研究部門)

P-98-----

Genome-wide analysis of cellular transcripts in the  
presence of Spliceostatin A

○Rei Yoshimoto<sup>1</sup>、Masaaki Furuno<sup>2</sup>、Max Burroughs<sup>2</sup>、Harukazu Suzuki<sup>2</sup>、

Yoshihide Hayashizaki<sup>2</sup>、Shinichi Nakagawa<sup>3</sup>、Minoru Yoshida<sup>1,4</sup>

(<sup>1</sup> Chemical Genetics Laboratory, ASI, RIKEN, <sup>2</sup> Omics Science Center, RIKEN,

<sup>3</sup> RNA Biology, ASI, RIKEN, <sup>4</sup> JST, CREST)

P-99-----

スプライシング阻害によるトランスクリプトーム変化に  
関する研究

○甲斐田 大輔<sup>1</sup>、古賀 光徳<sup>1</sup>、高崎 一朗<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 富山大・先端ライフサイエンス、<sup>2</sup> 富山大・遺伝子実験施設)

P-100-----

Prrp は splicing 抑制因子で、intron 依存的に mRNA に  
リクルートされる

佐々木賢太<sup>1</sup>、小野真奈<sup>2</sup>、宮崎惇二<sup>2</sup>、坂上弘幸<sup>2</sup>、高部かおり<sup>3</sup>、  
○栗原靖之<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>横浜国立大学大学院<sup>1</sup>環境情報学府,<sup>2</sup>工学研究院,<sup>3</sup>工学部分子生命学  
研究室)

P-101-----

選択的に mRNA 核外輸送を阻害する化合物の同定と解析

○糺本大和<sup>1</sup>、三原由揮<sup>1</sup>、松尾陽太<sup>1</sup>、前田紗希<sup>1</sup>、五十嵐雅之<sup>2</sup>、  
谷時雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>熊本大・院・自然科学・生命科学、<sup>2</sup>微生物化学研究所・生物活性)

P-102-----

セロトニン 2C 型受容体 mRNA の RNA 編集とリボース 2'-O-  
メチル化修飾の関係

○小山 唯<sup>1</sup>、加藤 卓<sup>1</sup>、福田 将虎<sup>1</sup>、弟子丸 正伸<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>福岡大・理・化学)

P-103-----

MAPK シグナル依存的な RNA 結合蛋白質 Rnc1 の Stress  
Granule 局在

○伊藤 祐奈<sup>1</sup>、佐藤 亮介<sup>1,2</sup>、田中 章友<sup>1</sup>、高田 真琴<sup>1</sup>、杉浦 麗子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>近畿大薬、<sup>2</sup>微生物化学研究所)

P-104-----

RNA 編集を識別する人工リボザイムの構築

○栗原 圭<sup>1</sup>、弟子丸 正伸<sup>1</sup>、福田 将虎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>福岡大・理・化学)

P-105-----

スプライソソーム非依存的スプライシングを可能にする

*HAC1* mRNA の構造特性

○河原 郁美<sup>1</sup>、芦原 悠太<sup>1</sup>、春田佳一郎<sup>1</sup>、児嶋長次郎<sup>2</sup>、田中 好幸<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東北大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup>大阪大学蛋白質研究所)

P-106-----

リン酸化 CTD 結合因子 PCIF1 による遺伝子発現調節機構

石黒尋保<sup>1</sup>、和仁翔太郎<sup>1</sup>、岩本悠<sup>1</sup>、田淵圭章<sup>2</sup>、大熊芳明<sup>1</sup>、○広瀬豊<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>富山大・院・医学薬学研究部、<sup>2</sup>富山大・生命科学先端研究センター)

P-107-----

ヒトにおける規格外に短いイントロンの発見とその特徴

○嶋田 誠<sup>1</sup>、佐々木(原口)典子<sup>1</sup>、前田 明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・遺伝子発現機構学)

P-108-----

核膜に局在する CTD 脱リン酸化酵素による遺伝子発現調節

○和仁翔太郎<sup>1</sup>、大熊芳明<sup>1</sup>、広瀬豊<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>富山大・院・医学薬学教育部)